

課題二「マッチ」

My match

人物

岬まどか（29）会社員

社員たち

村上ニナ（24）まどかの部下

赤井蓮（26）まどかの部下

北川晋太郎（38）取引先の担当者

西田剛（38）まどかの勤め先の社長

森知幸（82）まどかが出会う老人

男性（26）終バスに乗り込む

○シャインモチベーション オフィス外

透明の扉の横に、「シャインモチベーション」と社名の看板。

○シャインモチベーション オフィス (朝)

派手で声の大きい社員たちが笑いあい、
タブレット片手に通路を歩いている。
その横を胃をおさえ小走りする岬まど
か(29)。ガリガリの体、肩までの黒
髪にスーツ姿。電話をかける。

まどか「突然のお電話失礼します。弊社は、
従業員のモチベーション維持のためのサー
ビスを展開しており…」

ツーツと、電話が切れる音。

まどか「はあ」

○シャインモチベーション 女性トイレ

まどかは個室で便器に吐いている。

まどか「しぬ」

便器に垂れる社員証を外し床に置く。

社員証に、満面の笑みのまどかの写真。

○シャインモチベーション 営業部 (朝)

営業部の社員が数人仕事当中である。息を吐きながら席につくまどか。向かいに座る村上ニナ(24)は、栗色のウエーブルングヘアにワンピース。大きな目を見開いてニナが立ち上がる。

ニナ「あー！」

ニナの隣の席の赤井蓮(26)が驚いて、顔をしかめる。端正な容姿に丁寧なセットされた髪で、チェック柄のスカート姿。

赤井「なに？」

またすぐにパソコンに向かう赤井。

ニナ「どうしよう！」

まどか「村上さん、どうしました？」

ニナ「NRイノベーションの内部資料を、三河

エネルギーに送っちゃいました」

まどか「えっと、内部資料ってどれの話？」

赤井「え、まじかよ。個人データとか業績とかの、え、昨日岬さんが徹夜したやつ？」

ニナ「これ極秘とかじゃないですよね？」

まどかが深呼吸をして胃を抑える。

まどか「村上さん、そのメール私に転送して」

ニナ「え、あ、はい」

まどか「赤井くん、三河に電話してくれる？」

赤井「はい、了解です」

赤井が煙草を手に立ち上がる。まどかが鞆を手にして、立ち上がる。

まどか「村上さん、今からNRに行きます」

ニナ「え」

まどか「謝罪は早い方がいい」

ニナ「あの、それが、明日、両家の挨拶で、今から地元に戻んなきゃいけないくて」

まどか「いやでも、謝罪はしたほうが」

ニナがまどかに近寄り耳打ちする。

ニナ「まだ岬さんには言ってなかったですけど、私赤ちゃんできちゃって。そのことで私の両親と相手の両親がちよつとあれで」

まどか「あ、赤ちゃん。それは大変だね。」
村上「てことなんで、本当にごめんなさい」

○新宿駅 ホーム

人がひしめき合って、騒がしい。スマホを操作しながら、ブツブツ小声で謝罪を練習し、上を見上げるまどか。

まどか「この度は、ご迷惑をおかけし、大変申し訳ございませんでした。今回の原因は……。待って、そもそもミスの原因ってなんだ」

大勢人に乗せた電車がホームに着く。

○NRイノベーション 応接室

小さな丸テーブルに椅子がふたつ。まどかは直立している。廊下から早い大きな足音。勢いよく北川晋太郎（38）が応接室に入ってくる。まどかが頭をすねあたりまで下げる。

まどか「この度は、大変申し訳ございません」

北川「もうさ、話にならないから。もうこれはミスとかそういう問題じゃないから。いいからもう帰って」

まどか「本当に申し訳ございません。しかし、あの、弊社のサービスの価値はちようどこれからというところで…」

北川「そうですよ、シャインモチベーション導入は私も嬉しいことです。岬さんを信頼したその結果がこれ。本当に残念」

北川が応接室をでていく。

まどか「本当に申し訳ございませんでした」

まどかがさらに深く頭を下げる。ポケットの胃薬が床に落ちる。

○まどかの自宅（夜）

こじんまりした部屋。部屋着姿で、眼鏡、髪をまとめている。机にパソコンを開き高速でタイピングをしている。コンビニの Pasta と エネジー 飲料の缶。

深呼吸の後、胃を押さえて電話をかける。スマホの通話画面は「西田社長」。まどか「社長、お疲れ様です。夜分遅くに申し訳ございません」

電話越しの西田剛（38）は酔っぱらっている。男女複数人の騒ぐ声。

電話越しの西田「なに？ なんのよう？」
まどか「お忙しいところ、すみません。ZURイノベーションに契約を打ち切られそうなので、いち早くご報告をと思い…」

電話越しの西田「なんで」

まどか「機密書類を別会社に送ってしまった。

私の管理不足が原因です」

電話越しの西田「なんの管理不足」

まどか「契約など、事務処理をお願いしてた方が他のことで、手一杯といいますか、お願いすべきではない状況であることをキャッチできてなくて」

電話越しの西田「なんで」

まどか「なんで…」

電話越しの西田「損失分、来期のノルマ引きあげといて」

まどか「あ、え、はい、でも……」

途中で西田に電話を切られる。胃をおさえ、トイレに駆け込むまどか。

○シャインモチベーション 営業部 (朝)

おにぎりを食べ、胃薬を飲むまどか。

ニナ「おはようございまーす」

ビクツと驚いてむせるまどか。

まどか「おはよう。いつもより早いね」

ニナ「岬さん、聞いてください。私、会社やめることになりました」

まどか「ん？」

ニコニコして楽しげなニナ。

ニナ「相手の両親が、なんか市議会議員なんですけど、説得して、結婚決まって、赤ちゃん育てていいよって。会社も辞めなっ

て。カバンから退職届を取り出すニナ。

ニナ「てことで、来月はまでよろしくです」

ニナが浅く頭を下げて、まどかに退職届を差し出す。

まどか「えっと」

赤井が出勤し、デスクに座る。

赤井「岬さん、また仕事増えちゃいますね」
まどか「ん？」

赤井「俺は今の案件で手一杯だし、岬さんほ
どこの仕事に熱量ないし」

ニナから受け取った退職届けをデスクにおいて、ポーツと眺める。

○バス停（夜）

「終バス」と電光掲示板に書かれたバスがバス停に停車。白髪で腰のまがった森知幸（82）が杖をつきながら、下車する。疲れ切った様子のもどかも、下車する。駆け込み乗車した男性が森にぶつかる。男性は無視してバスに乗車。森はまどかの前で転倒する。

まどか「大丈夫ですか」

まどかが慌てて、森を支える。

森「いててて」

腰をさすって、痛そうに顔を歪める森。

まどか「救急車、呼びますか？」

森「いやいや大丈夫」

少し起き上がる森のポケットから、マツチが地面に転がる。まどかが拾って、

森に手渡す。

森「ありがとう。ああ、これはね、大事なお守りなのよ」

痛そうに腰を押さえながら立ち上がる。

まどか「あの、やっぱり病院行った方が……」

森「もうね、慣れっこだから。」

まどか「いや、あの大きなお世話なんですけど、痛みに慣れない方がいいと思います」

森「そりゃそうだね」

まどか「事情は存じ上げませんが、まだやれることはあると思います」

森「ありがとう。でも僕にはね、これがあるから、もういいんだよ」

まどか「マツチのことですか？」

森が長方形で古びたえんじ色のマツチを見せてにっこり笑う。まどかが首を傾げる。

森「これで全部燃やしてしまうんだ。大好きなね、嫁さんがそうなったみたいに、僕も」
まどかはその場に固まり、声が出ない。
手をあげて、杖について歩き出す森。

○シャインモチベーション 営業部 (朝)

まどかが入ってくる。

まどか「おはようございます」

大きな声で挨拶するまどかに驚く赤井。

赤井「おはようございます。どうかしました？」

まどか「いや、まあね」

まどかがポケットに手を入れる。手の中には猫の絵柄のマツチケース。マツチケースをスライドすると、一本のマツチと胃薬が二つ。

